

# ●令和6年度学校評価

## 1 本年度の学校評価

本年度の重点目標		<p>①生徒がスモールステップによる基礎学力の定着から学習意欲の向上に繋げられるよう、教科指導やICT機器の有効活用などの研修・研鑽を通じた授業の実践に努める。</p> <p>②生徒が自信を深められるように、個別支援や集団生活指導の環境の改善に努める。特に、教育相談委員会の活性化、専門家（SC・SSWなど）や外部機関との連携をさらに深め、個に応じた支援の工夫を図る。</p> <p>③生徒への適切な指導・支援を教職員が一体となって対応できるように、アクティブミーティングを積極的に導入する。</p>	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
学習環境整備 (総務部)	<p>防災・減災に関する計画と工夫</p> <p>eメッセージの登録率の向上 式典内容の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練の内容の充実</li> <li>・eメッセージの登録率の向上</li> <li>・歌唱指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の防災訓練で避難経路の確認だけでなく避難するまでの時間の早さや災害にあった場合の対処法を意識するよう呼びかける。</li> <li>・PTA総会や保護者会などで保護者にeメッセージの登録を促す。</li> <li>・昨年度の卒業式から国歌斉唱・校歌斉唱を再開した。今年度も歌唱指導の時間をとり、式典の内容を充実させる。</li> </ul>
学習指導 (教務部)	<p>生徒の学びに対する興味・関心を向上させ、確かな学力を身につけさせる。 成績処理を円滑に実施する。 日本語学習への意識付け。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の定着</li> <li>・きめ細やかな指導の徹底</li> <li>・日本語学習支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールステップの目標設定による達成感を感じさせる指導を継続する。</li> <li>・成績不振者に対して、学習会の設定や始業前の個別指導をより充実させる。また、家庭学習の習慣づけを行う。</li> <li>・担任・教務部が連携して、校内実施の日本語教室へ積極的に参加するよう声がけする。</li> </ul>
生徒指導 (生徒指導部)	<p>基本的な生活習慣の確立に向けた、主体的な取り組み 人としての在り方・生き方に関する学びの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体性を高められる生活指導の実践</li> <li>・情報モラル教育、人権教育、交通安全教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ自己点検を通して、身だしなみを整えることの習慣化を図り、規範意識を向上させる。生徒と教員が相互に理解が得られるよう、校則の見直しや改定に向けた取組を行う。</li> <li>・情報モラル教育の推進とともに、人権教育や交通安全教育の充実を図る。生徒指導を通じた人としての在り方・生き方に関する学びを充実させ、日常生活で実践できるようはたらきかけていく。</li> </ul>
進路指導 (進路指導部)	<p>年間を通じた進路指導の充実</p> <p>障害者枠での就職希望者に対する、就業支援体制の整備。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路を意識させる指導の充実</li> <li>・企業、公共職業安定所等との連携</li> <li>・多様な進路希望に対する個別指導の手立てとサポート体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任による面談、総合的な探究の時間、進路講演会などを活用し、生徒の進路意識を向上させる。また特別な配慮を必要とする生徒の進路意識向上や社会的自立や適応に資する体制の整備を行う。</li> <li>・企業訪問実施や各自自治体が主催する企業担当者との情報交換会への参加によって、より多くの企業との関係づくりに努めると共に、公共職業安定所等との連携を深め、求人確保および就業に向けた準備に努める。</li> <li>・専門学校への進学希望者をはじめ、3年コース選択者等の大学進学希望の生徒に対する指導を充実させるため、各教員と連携し複数による指導を行っていききたい。また就職希望者については就職形態を問わず、早い段階から教員間で情報を共有すると共に、必要に応じて面接のみならず基礎学力試験に対する指導を教科と連携して行い、サポート体制を確立させる</li> </ul>
生徒会活動 (生徒会)	<p>生徒会役員の資質向上</p> <p>生徒会行事の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会役員会の積極的な開催</li> <li>・生徒会行事内容の見直し・改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に生徒会役員会(執行委員会)を開き、各行事に向けた話し合いを充実させる。また、ボウリング大会、体育祭などの新たな行事に挑戦することで生徒会活動を活発にする。</li> <li>・熱中症の観点から7月実施の球技大会をボウリング大会に変更し、球技大会と体育大会を合わせた体育祭の実施をする。また、それぞれの行事で生徒にアンケートを実施し、今後の改善を生徒会と考える。</li> </ul>
保健教育 (保健部)	<p>健康的な生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康相談の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の健康と生活リズムの確認を行い、健康相談の充実を図り、生徒の健康に関する主体性や自主性を促す。また、保健指導などを通して、健康的な生活習慣の促進にも努め、生徒の心身が健全に維持されるようサポートする。</li> </ul>

	教育相談における連携の強化  環境衛生の適切な維持及び改善	・教育相談の充実  ・学校環境衛生活動の充実	・生徒たちが教育相談を活用して、精神的に良好な状態で学校生活を送れるように引き続き支援していく。そのために、教員間の定期的な情報交換や話し合いなどを一層密にして連携を深めていく。更に、関係機関やＳＣの助言を活かしてチーム力を強化し、生徒のこころの成長に寄与する。 ・生徒の環境衛生に関する意識を高めるために、生徒保健委員会や生徒美化委員会を活用する。各委員会の月１回の実施や年５回の清掃活動の実施だけでなく、日頃から学校環境衛生活動に尽力できるように創意工夫を行う。
食育指導 (給食部)	喫食率の維持、向上  食育の推進	・献立の魅力発信  ・積極的な資料提供	・定時制昇降口に当日分と次回分のメニューを記載したボードを掲示する。また、「あいちを食べる学校給食の日」やフィリピン料理等の外国料理が出る日はＳＴで連絡し、給食への興味関心を高めるとともに、喫食率の維持向上を図る。 ・給食だよりや給食室の机上の資料を通して、食に関する正しい知識を身に付けさせる。
教育ＩＣＴ (ネットワーク情報)	・個別最適化され、創造性を育む教育ＩＣＴ環境の整備構築	・生徒用タブレット端末の保守点検と利活用の促進  ・外部へ向けた情報発信の充実	・生徒用タブレット端末が、文具のような身近で必要不可欠な道具として活用されるようはたらかせる。生徒・教員とも情報機器の取扱いや情報モラルについて正しく理解できるようにする。 ・定時制ホームページについて、定期的な更新や積極的な情報発信を促す。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		①生徒がスモールステップによる基礎学力の定着から学習意欲の向上に繋がられるよう、教科指導やＩＣＴ機器の有効活用などの研修・研鑽を通じた授業の実践に努める。 ②学校いじめ・不登校対策基本方針に則り、年間計画と遂行と迅速かつ適切な早期対応を行い、生徒たちの心身の健康に対するサポート体制を充実させる。 ③教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努める。	

## ●令和５年度学校評価

### 1 自己評価結果等

前年度の重点目標	①生徒がスモールステップによる基礎学力の定着から学習意欲の向上に繋がられるよう、ＩＣＴ機器の有効活用や教科指導法の研究を通して授業改善に努める。 ②学校生活で自信を深められるように、生活指導や集団生活の環境を整備する。また、ＳＣなどの有効活用や特別支援教育の理解を深め、相談体制も充実させる。 ③生徒が自らの進路を主体的に考え、そのために必要な社会人として素養を身に付けていけるように教育の充実を図る。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
学習環境整備 (総務部)	防災・減災に関する計画と工夫  式典の円滑な進行  ＰＴＡとの連携	・防災・減災対策  ・式典の円滑な進行  ・ＰＴＡとの連携	・防災訓練を２回実施したが、あまり生徒の防災・減災に対する意識は高めることができなかった。  ・式典への生徒の取り組みは良い。今年度は卒業式前に歌唱指導を行ったが、生徒の取り組みも良かった。 ・ＰＴＡとの連携については確実にを行うことができた。
学習指導 (教務部)	生徒の学びに対する興味・関心を向上させ、確かな学力を身につけさせる。  成績処理を円滑に実施する。	・授業内容の定着 ・きめ細かな指導の徹底	・早い段階から成績不振者に声がけすることができ、成績不振者指導においても個別指導を重視したため、学習状況は概ね良好で追認考査に該当する生徒も１名となった。  ・欠課が重なってきた生徒に対して、担任や保護者と連携し、個別指導を実施することができた。特定の生徒の欠課が重なる傾向があるが、今後も指導の徹底をしていく。
生活指導 (生徒指導部)	基本的な生活習慣の確立に向けた、主体的な取り組み  人としての在り方・生き方に関する学びの充実	・主体性を高める生活指導の実践  ・情報モラル教育、人権教育、交通安全教育の推進	・Ｒ４年度と同様に、身だしなみ指導を「全体指導」と「身だしなみ自己点検」としてそれぞれ３回実施した。生徒が身だしなみを自ら進んで整える意識付けを行い、配慮が必要な生徒は個別に対応できた。 ・交通事故件数はＲ４年度に比べ減少したものの、事故発生時の対応が不十分なケースが複数発生した。自転車乗車時のヘルメット着用の努力義務化とともに、自転車乗車時の交通安全については啓発し続ける必要がある。人権教室では、「ＳＮＳの利用と人権」として、情報モラルにも関連したテーマとした。関連したテーマを、異なる外部講師が講話を行うことで、生徒の理解がより一層深められると考える。
進路指導	年間を通じた	・進路を意識させる指	・総合的な探究の時間や進路講演会などで、生徒の就

(進路指導部)	進路指導の充実	<p>導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業、公共職業安定所等との連携</li> <li>・多様な進路希望に対する個別指導の手立てとサポート体制の確立</li> </ul>	<p>職・進学に向けての意識を高めることができた。来年度も継続していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用情勢が逼迫するなか、企業、公共職業安定所と連携することで、多くの求人の確保につなげた他、新規求人についても開拓できた。</li> <li>・今年度は就職希望者が卒業予定者のうち8割を占め、残りの2割が進学希望者であった。このため進路指導は就職指導中心に据え、進学希望者に対しても個別の指導を行うことで、生徒全員が進路先を決めることができた。一方で年度ごとに進路希望先には大きな変動が生じるため、対応手順等を確実に継承することでサポート体制の脆弱化を防止する必要がある。</li> </ul>
生徒会活動 (生徒会)	<p>執行委員会の機能強化</p> <p>学校規模に合わせた生徒会行事の合理化</p>	<p>・執行委員会の機能強化</p> <p>・学校規模に合わせた生徒会行事の合理化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会役員で判断し、率先して行動する姿勢が多く見られた。反省会では会長・副会長を中心に話し合うことができた。来年度は、行事後に生徒の意見をFormsのアンケート機能から吸い上げ、生徒会で審議していきたい。</li> <li>・今年度は、主任業務1年目ということもあり大きな行事変更や軽減のための策を実施することができなかった。しかし、来年度から熱中症防止、負担軽減の観点から7月に実施していた球技大会をボウリング大会に変更し、外部との連携を図ることで準備期間の時間的猶予を確保することができる。課題としては、球技大会を無くすことで縦のつながりを弱めてしまう可能性がある。学校全体で活動することが少ないため、球技大会は貴重な機会だった。今後、球技大会に変わる行事や行事内容の変更が求められる。</li> </ul>
保健指導 (保健部)	<p>健康的な生活習慣の確立</p> <p>健康意識を向上させる活動の計画と工夫</p> <p>環境衛生の適切な維持及び改善</p>	<p>・心身の健康管理の充実</p> <p>・感染症対策の充実</p> <p>学校環境衛生活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一年生の保健の授業において、性感染症について保体教諭と養護教諭が連携した授業をし、梅毒やHIV感染について詳しい知識や検査について、感染経路を視覚的にイメージできる実験などを行い、性感染症について主体的な理解を促した。</li> <li>・一年生の全生徒はSCとも面談した。また、特別支援コーディネーターが「個別の教育支援」を必要とする生徒に対して支援計画を作成し、担任と協力して細やかな指導にあたった。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の5類引き下げにより変更もあった。例えば「生活の記録」は各HR担任の裁量で行い、健康観察は養護教諭の用意したファイルに記入する形式で毎日行われた。保健室利用の生徒にはこまめに声掛けをして、心身の健康のサポートを行った。</li> <li>・生徒美化委員の活動で各考査最終日に昇降口清掃と教室清掃を実施した。</li> </ul>
食育指導 (給食部)	<p>十分な手洗い時間の確保及び徹底</p> <p>ハンカチ使用</p>	<p>・手洗いについての掲示による啓発</p> <p>・ハンカチ使用の呼びかけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示物を作り直し、石けんを使った場合と使わなかった場合の細菌の繁殖具合の違いが一目で分かるようなものを掲示した。また、出来る限り手洗い場に立って手洗い指導を行ったこともあり、全員が石けんを使って手を洗うようになった。</li> <li>・ハンカチを忘れる生徒はほとんどいないが、忘れたときに生徒同士で共有したり、忘れたのに給食室内で手を洗ったりする生徒がいた。その場で注意をしても、後日同じことをする生徒もおり、担任や生徒指導部とも協力しながら対応していく必要があると感じた。</li> </ul>
教育ICT (ネットワーク情報)	ICT機器等の利活用の促進	<p>・ICT機器等の活用を促進</p> <p>・外部へ向けた情報発信の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業やHRで、生徒用タブレット端末の積極的な活用がみられた。積極的な活用一方で、使用に伴う付属品の損傷事故が発生しており、取扱いについて周知徹底を図る必要がある。</li> <li>・R4年度と同様に、スクール・ポリシーや校則、いじめ防止基本方針など、必要な情報提供がなされた。さらに、部活動や学校行事をはじめ、進路状況の掲載など、これまで以上に学校ホームページの活発な更新がなされた。昨年度に比べ、外部へ向けた情報発信が充実した。</li> </ul>
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ制限明けの学校生活となり、授業・行事等がほぼ計画どおりに実行された。授業内における生徒同士のグループワークや実習等、また球技大会・体育大会等の縦割り班による活動で全校生徒が一体となった取組などが功を奏してか、多くの生徒が健全な学校生活を送ることができた。</li> <li>・小規模校であるが、様々に事情を抱える生徒がいる。教職員間の情報共有やきめ細かな指導を</li> </ul>		

	<p>連携して行うことで生徒自らが改善に向けた行動ができた。また外部機関との連携も含め個に応じた対応ができた。学習面においても不振科目を抱える生徒は昨年度に比べ、大幅に減少した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活の様子を積極的にHPアップすることで生徒の達成感を感じる機会を与え、また保護者、中学校、地域等にも情報発信できた。</li> </ul>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 2 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<p>①スモールステップによるきめ細かい指導やICT機器の有効活用を通して基礎学力の定着から発展的な学びに繋げ、またやり遂げていくことで自信を深めながら社会で通用する人間の育成に努めた。</p> <p>②学校いじめ・不登校対策基本方針に則り、年間計画の遂行と迅速かつ適切な早期対応を行い、生徒達の心身の健康に対するサポート体制を充実に努めた。</p> <p>③教職員の年次休暇の計画的な使用を促進するための環境整備に努めた。</p>
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スモールステップ、少人数指導、生徒タブレットの積極的活用などにより、ほぼ全生徒が意欲的に学習に取り組むことができた。</li> <li>・学校いじめ防止基本方針に基づき、年5回の面談週間や生活アンケート、SC面談の積極的活用などを通して、生徒の不安、悩み等へ教員が連携して丁寧に対応することができた。</li> <li>・特に審査中や長期休業中等、休暇取得を有効に活用して、ワークライフバランスに取り組んだ。</li> </ul>
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国にルーツをもつ生徒の増加、個別支援を要する生徒など、多様な生徒に対して、個別最適な学びの支援体制や環境整備に更なる充実に努める。</li> <li>・生徒対応について、教職員が一体となるために、教職員間内で生徒の現状、今後の指導や支援の方向性を確実に確認していく。</li> </ul>
その他(学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブラーニング、ICT、生徒に印象深い授業、新しいことへの積極的な取組などを導入しながら、個別最適な学び、協働的な学びを通して、この多様な時代に生徒自らが自分の方向性を見つけられると良い。</li> <li>・非常勤職員のタブレットやモニター設置等、さらにICT環境が整うと良い。</li> </ul>
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	全日制に同じ。